

あいち農産物生産流通レポート

令和2年5月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 卸売市場法改正に伴い卸売市場に期待される取組について (食育消費流通課)	1
◎ 東日本情報	
・ 外出自粛による野菜の価格の動向 (東京事務所)	2
◎ 西日本情報	
・ 大豆新品種「フクユタカA1号」への全面切替について (園芸農産課)	4
◎ フラワーページ	
・ 2019中国北京国際園芸博覧会出展報告 (愛知豊明花き流通協同組合)	5
・ 花きには癒しの効果あり-家庭や職場に花きを飾ろう- (東京事務所)	8
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の5月の見通し(県内市場)	24

※今月、「地域トピックス」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

平成29年4月号から、「全国における主要農産物の輸出入実績」、「関連指数」のページはなくなりました。それぞれの情報につきましては、

【輸出入実績】

農林水産省ホームページ内「農林水産物輸出入統計」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

【消費者物価指数】

全 国：総務省統計局ホームページ内「消費者物価指数月報」
<http://www.stat.go.jp/data/cpi/>
名古屋：愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/bukka.html>

【農作物価指数】

農林水産省大臣官房統計部「農作物価統計調査」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noubukka/>

【名古屋市小売価格】

総務省統計局「小売物価統計調査」
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_

を御覧ください。

卸売市場法改正に伴い卸売市場に期待される取組について

食育消費流通課

1 改正卸売市場法の概要

卸売市場を含めた食品流通の合理化と生鮮食料品等の公正な取引環境の確保を促進する目的のもと、改正卸売市場法が2018年6月22日に公布され、2020年6月21日に施行されます。生鮮食料品等の公正な取引の場として、6つの共通取引ルール^{*}を遵守し、公正・安定的に業務運営を行える卸売市場を、中央卸売市場又は地方卸売市場として農林水産大臣又は都道府県知事が認定・公表し、指導・検査監督することとなります。

(^{*} ①売買取引の方法の公表、②差別的取扱いの禁止、③受託拒否の禁止(中央卸売市場のみ)、④代金決済ルールの策定・公表、⑤取引条件の公表、⑥取引結果の公表)

2 法改正に伴い卸売市場に期待される主な取組

卸売市場では、6つの共通の取引ルールのほかに、その他の取引ルールとして、第三者販売や直荷引き等についての遵守事項を定めることができます。

また、法改正に伴い、今後は各卸売市場の取引実態に応じて、次のような創意工夫をいかした事業展開が期待されます。

	取 組	主 な 内 容
①	流通の効率化	<ul style="list-style-type: none"> トラックバース（トラックの荷台と卸売場の荷受口との段差がなく円滑に搬出入を行うことができること）の整備 ハブ・アンド・スポーク（複数の卸売市場間のネットワークを構築し、一旦拠点となる卸売市場に集約して輸送した後に他の卸売市場へと転送すること）
②	品質管理及び衛生管理の高度化	<ul style="list-style-type: none"> 低温卸売場、冷蔵保管施設、低温物流センターの整備等によるコールドチェーンの確保 品質管理認証の取得に必要な衛生設備等の整備
③	情報通信技術その他の技術の利用	<ul style="list-style-type: none"> 低温卸売場の温度管理状況、保管施設の在庫状況等を事務所にいながらリアルタイムで把握できるようにするなどの効率的な商品管理
④	国内外の需要への対応	<ul style="list-style-type: none"> 加工施設や小分け施設の整備 加工、包装及び輸出手続等を一貫して行う輸出拠点施設の整備
⑤	関連施設との有機的な連携	<ul style="list-style-type: none"> 市場まつり等卸売市場の役割に支障を及ぼさない範囲での施設の有効活用

その他、卸売市場には、次のような取組に努めることが求められます。

	取 組	主 な 内 容
①	災害時等の対応	<ul style="list-style-type: none"> 事業継続計画（BCP）の策定 地方公共団体と食料供給に関する連携協定の締結
②	食文化の維持及び発信	<ul style="list-style-type: none"> 多種多様な野菜及び果物、魚介類、肉類等の食材の供給 小中学生や消費者との交流
③	人材育成及び働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 労働負担を軽減する設備の導入 休業日の確保や女性が働きやすい職場づくり

外出自粛による野菜の価格の動向

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、東京都では都知事により3月最後の週末の外出自粛が呼びかけられ、4月7日には7都府県を対象に首相により緊急事態宣言が発令されました。そのため家庭消費需要が一気に高まる一方、業務需要は停滞しています。

そこで、平成28年以降の最近5か年の3月～4月における東京都中央卸売市場の市況から、本県の主要品目であるキャベツ、トマトを取り上げ、価格の動向を探りました。

1 キャベツについて

図1に示したように、キャベツの東京都中央卸売市場（全市場）における令和2年3月第2週^{注1}から4月第2週までの週ごとの日平均入荷量は710t～890tと、過去4年の各時期のそれに比較し、3月第4週は最も多く、4月第2週は最も少なかったものの、おおむね標準的な量が入荷されました。

それに対して価格（大田市場調べ・愛知県産・10kg当たりの相対取引での高値・税込）は、3月第2週と第3週は1,404円と比較的低く推移し、第4週には入荷量に見合う平均的な価格と言える1,728円になりました。その後、外出自粛が呼びかけられた第5週になると、入荷量は前週比97%の859tに減りましたが、価格は最近5か年で最も高い3,240円（前週比188%）に跳ね上がりました。翌週には落ち着きを取り戻し、2,160円（前週比67%）に下がったものの、これは最近5か年の同時期の平均価格1,572円^{注2}の137%に当たり、入荷量を考慮すると高めの価格となりました。4月第2週には入荷量の減少もあって再び2,700円（最近5か年の同時期の平均価格の159%）にあがりました。

なお、最も総販売数量の多い卸売価格である中値でも、3月第5週に高騰し、その後やや下がるも高めに推移するといった高値と同様の動きがみられました。

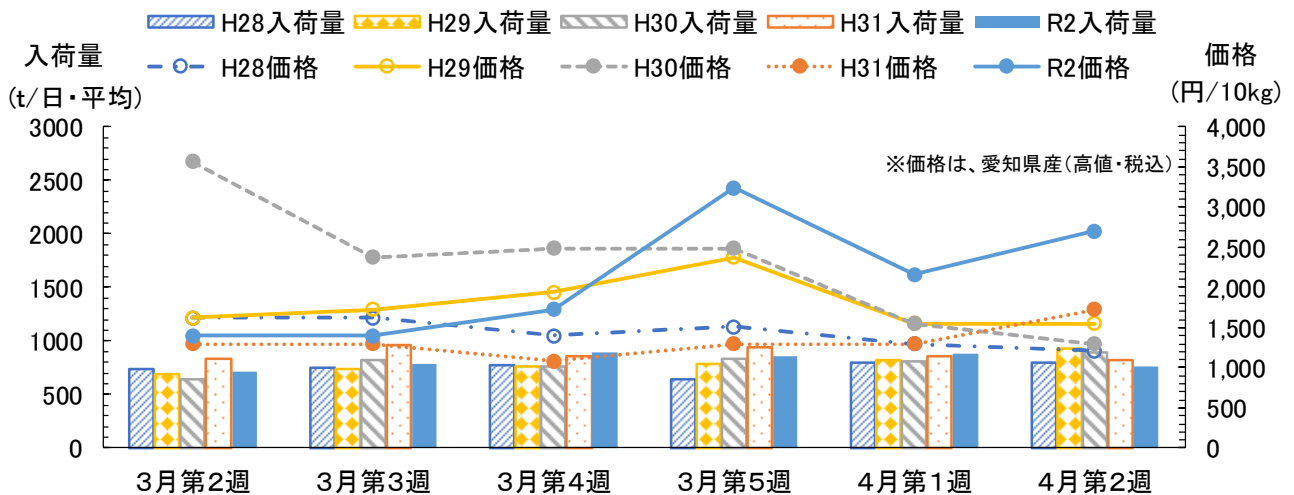


図1 キャベツの入荷量と価格の推移

(東京都中央卸売市場・週間市況から)

※3月第5週のないH30.31については、第1週を第2週とし、以下繰り下げ、第4週を第5週として扱った

注1：市場における週で、金曜日から木曜日まで。

なお、平成30年と平成31年は3月第5週がなかったため、入荷量と価格について、それぞれ第1週を第2週と読み替え、以下繰り下げて、第4週を第5週と読み替えた。

注2：平成28年から平成31年までの毎年4月の愛知県産価格（10kg当たりの相対取引での高値）が不明のため、神奈川県産価格（同）に0.8を乗じた価格を愛知県産価格として推定した。なお、係数は同時期の愛知県産平均価格と神奈川県産平均価格との比較による。

2 トマトについて

トマトについては、図2に示したように、東京都中央卸売市場（全市場）における令和2年3月第2週、第3週の日平均入荷量は237 t、212 tと過去4年に比べて少なめの入荷となりました。第4週には最近5か年の同時期の日平均入荷量をやや上回る286 tが入荷されましたが、その後3月第5週、4月第1週と270 t台、4月第2週は280 t台で少なめの入荷が続きました。

この間の価格（大田市場調べ・熊本県産・4 kg 当たりの相対取引での高値・税込）は、4月第1週まで一貫して2,376 円で推移し、4月第2週に2,160 円に下がりました。これら価格は、入荷量の少なさが影響してか、最近5か年のそれぞれの時期の平均価格と比べると、105%～112%に当たり、かなり高めでの推移となっています。

平成28年は3月第2週の価格2,484 円が翌週3,024 円（前週比122%）に上昇したまま推移し、4月第1週に2,484 円に戻るといふ大幅な値動きを示しましたが、それ以外の年は大きな値動きをしておらず、価格は安定していました。これは令和2年についてもほぼ当てはまっており、大きな価格の変動は見られませんでした。

一方、中値は、3月第5週に前週比108%の1,858 円に上がったものの、それを除く3月第2週から4月第1週までは1,700 円台で推移し、4月第2週には1,555 円に下がっており、高値同様に外出自粛に伴う大きな価格の変動は見られませんでした。

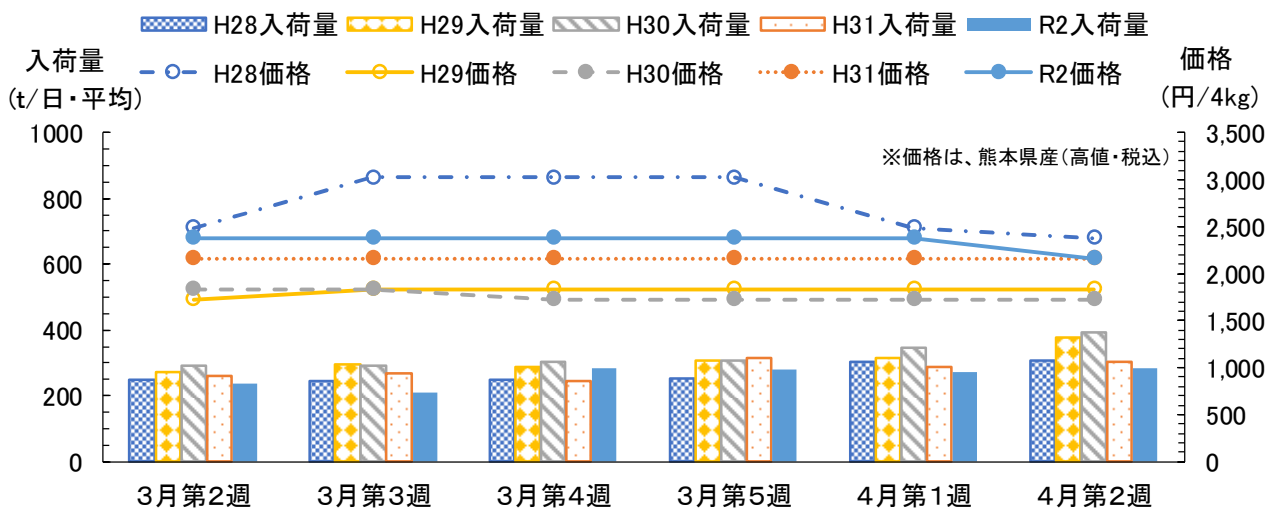


図2 トマトの入荷量と価格の推移

(東京都中央卸売市場・週間市況から)

※3月第5週のないH30,31については、第1週を第2週とし、以下繰り下げ、第4週を第5週として扱った

3 考察

今回、キャベツとトマトの2品目のみを取り上げましたが、入荷が安定していても3月第5週に価格の急上昇を示したキャベツに対し、例年と同じく安定相場のトマトと、価格の動向については非常に対照的であることが明らかになりました。他の品目の動向も調べると、キャベツと同様に値を上げる品目、トマトのように比較的価格の安定した品目、逆に値を下げる品目がみられる可能性があります。

この値動きの違いがどこから来るかは興味深いところですが、ひとつには、キャベツは炒め・煮込み・生食（サラダ）と、料理の汎用性が高く、使い勝手がいい食材であるのに対して、トマトは生食での消費が大半となる点が要因として考えられます。

トマトのような品目については、以前から言われているように、どのように調理するかの多様なレシピを広く紹介することが、今後の家庭消費需要を高め、市場価格を押し上げるために、ますます重要となってくるのではないかと考えられます。

大豆新品種「フクユタカA1号」への全面切替について

園芸農産課

本県の大豆は、稲・麦・大豆の2年3作体系でブロックローテーションを行いながら、主に西三河地域の水田で栽培されています。作付面積は約4,500haで、豆腐への加工適性が高い「フクユタカ」が栽培されていました。

「フクユタカA1号」(以下、「A1号」という)は、「フクユタカ」に莢がはじけにくい性質を付与した新品種です。「A1号」の作付により収穫ロスが減り、大豆収穫量が増加することが期待されるため、2017年に「A1号」を本県の奨励品種に採用し、2018年から全面切替に取り組んでいます。



裂莢性の比較(60℃乾熱で9時間処理)

1 「フクユタカA1号」の特性

「A1号」の栽培特性、収量、品質、子実中の成分は「フクユタカ」と同等です。また、実需者からは、豆腐への加工適性も同等であると評価されています。なお、2015年に安城市、2016年に豊田市で子実の損失量を調査したところ、「A1号」の損失量は「フクユタカ」と比べて少ない結果となりました(図1)。

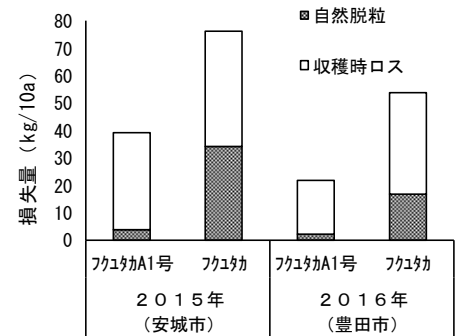


図1 子実損失量の比較

2 2020年産からの全面切替に向けた取組

(1) 2018年度

- ・愛知県産フクユタカとして、農産物検査の銘柄設定を行いました。
- ・切替計画を策定(表1)しました。

(2) 2019年度

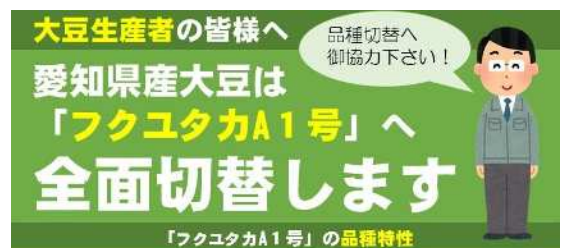
- ・切替時の注意事項について資料を作成し、生産者に啓発しました(図2)。
- ・経営所得安定対策の産地交付金を活用し、切替を支援しました。

(3) 2020年度(予定)

- ・引き続き、生産者への啓発並びに産地交付金による切替支援を行います。

表1 切替計画

品 種		単 位 : h a	
		2019年	2020年
A 1 号		5 4 5	4, 5 0 0
内 訳	一般生産	3 9 0	
	種子生産	1 5 5	
フクユタカ		3, 9 5 5	0



「フクユタカA1号」は、従来の愛知県大豆奨励品種「フクユタカ」に莢がはじけにくい性質を付与した新品種です。新品種を作付けることで収穫ロスが減り、収穫量が増加することが期待されます。



切替に際しての注意点

令和2年産で県内全球の大豆作付を「フクユタカA1号」に切替えます。下記の内容にご留意ください。

- ①2019年産「フクユタカ」は全量出荷
(自家消費を除き全量出荷し、品種の混在を防ぎます。)
- ②2020年産用「フクユタカA1号」種子を生産予定面積分注文
- ③2020年産出荷用紙袋の品種名に「フクユタカA1号」を記載



図2 生産者向け啓発資料

2019 中国北京国際園芸博覧会出展報告

愛知豊明花き流通協同組合

愛知豊明花き流通協同組合では 2019 年中国北京世界園芸博覧会（以下、北京世園会）および中国菊花協会からなる主催団体からの要請を受け、先ごろ開かれた北京世園会・国際菊花競賽展（北京世園会菊花展）へ出展しました。場所は、メイン会場の中心部に位置する国際館で、期間は 9 月 20 日～10 月 2 日までの 13 日間。出展の状況を紹介させていただきます。

1 出展準備

主催者からは展示費用が供出されますが、それに伴い、展示内容について主催者の要求が出されます。今回のリクエストは、日本の伝統菊の展示と菊人形の展示でした。伝統菊については愛知豊明花き流通協同組合の最も得意とするところです。が、菊人形についてはまったくの素人であるため、菊人形師の神谷重明さんをお願いしたものの、ご高齢のため、海外同行ができませんでした。このため、神谷氏をお願いし、職員を派遣して指導を仰ぐことで、何とか菊人形出展の目途を付けました。

古典菊には嵯峨菊・伊勢菊・丁子菊・肥後菊・江戸菊などの系統があり、今回はこれらすべての系統から 100 種類 350 鉢ほどを選び、北京の菊栽培基地の一角で 2 月末の挿し木から 9 月の開花までの期間中毎月渡航し、栽培・管理したものを展示しました。古典菊の開花時期は一般的な秋ギクとほぼ同じ頃なので、9 月中旬に開花させるためには遮光による開花促成が必要です。北京には手作業で遮光設備を設営する菊師がいるので、菊栽培基地に遮光設備 2 棟を作ってもらい、現地作業員に毎朝晩の遮光幕開閉の作業をお願いしました。展示に必要な機材は、取引先の団体に属する木工所に依頼し、数寄屋調の柵や菊人形の御殿を作ってもらいました。最近北京では、展示ディスプレイ機材に要求が高まっており、これについての競技会も開催されています。



会場図（中央○が国際館）



菊人形師 神谷重明さん

会期に間に合うよう、事前に菊人形の架台や装飾品を輸出し、9月11日に国産小菊を携え北京へ出発、翌日午前から出展の準備に取り掛かりました。搬入以前の菊人形制作は4日間を予定し、現地採用の助手とともに職員1名が付きっきりで行いました。これと並行して展示資材の確認、輸送車両および積込段取りの確認を行い、菊栽培基地では古典菊の支柱調整、鉢の清掃等を実施しました。



木工所に依頼した数寄屋調の柵



手作りの菊開花促成用遮光設備

2 会場展示作業

16日から搬入が始まり、まず展示資材と菊人形を積込み、この便とともに北京世園会へ向かいます。夜10時、北京世園会国際館搬入口に到着。車両は一路北京市内に戻り、翌日、翌々日と菊栽培基地において古典菊を積込み三度に渡って会場へ戻ります。

17日は、朝から図面に合わせて展示什器を配置しながら古典菊を飾る雛壇と菊人形の舞台を設営し、同時に組み立ての必要な菊人形御殿や数寄屋柵を組み上げていきました。17日夜には古典菊の第1便が到着し、菊を展示会場に搬入、翌18日朝から設計図面に合わせ古典菊を配置していき、18日夜の最終便で到着した古典菊を19日に配置し、すべての展示作業が終了しました。



会場での菊人形作成



出来上がった展示風景

3 一般公開の様子

20 日朝から菊展示会場が一般公開され、入場客がやってきました。開場後の客の入りは上々で、熱心に古典菊を観察する様子や、物珍しそうに菊人形を眺める姿が見受けられました。また 20 日には表彰式も行われ、当組合の菊人形が最佳作品賞（最優秀作品賞）を受賞しました。

翌 21 日の会場は、一日中大勢の来場者でごったがえしていました。展示の前面を囲んでいる数寄屋塀のさらに前面に立てている立ち入り禁止のポールは来場者に押し込まれてしまうので、これに対する対処と水やりを会場管理者にお願いしました。また、会場のガイドを担当する若者には、日本の伝統菊と江戸菊東海道五十三次について概略をレクチャーし、来場者を案内するとき説明してもらおうようお願いして、今回の展示業務を終了しました。

4 展示撤収

展示終了に合わせて再び来場しました。この時点においても来場人数はとても多く、菊花展会場も人でいっぱいでした。一般公開終了後、展示場撤収がはじまり、すべての展示植物を持ち帰りました。この作業は品種保護の意味では最も大切な作業です。



現地スタッフと



入場者の様子

総じて展示は大変好評を博しており、今回の出展リクエストに応えることができたことを安堵するとともに、改めて中国の人々のキクへの関心の高さを実感する所となりました。

花きには癒しの効果あり-家庭や職場に花きを飾ろう-

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

本県は、花き産出額が日本一の県です。しかしながら、東京都中央卸売市場における花きの取扱金額は年々減少するなど、厳しい状態が続いています。その一方で、花は室内の装飾やインテリア等としての活用が期待されます。今回は、家庭や職場における花きの活用に向け、その効用や飾り方について紹介します。

1 花きの取扱金額と支出金額

東京都中央卸売市場における本県産花きの取扱金額は 2016 年から年々減少しています (図 1)。

取扱金額減少の背景には様々な要因がありますが、その一つとして、家庭における花きの支出金額の減少が考えられます。二人以上の世帯における切花及び園芸用植物への支出金額は、どちらも減少傾向にあります (図 2)。

この状況を打開して消費を伸ばすには、花きの需要喚起が重要と考えます。花きの品質等に加え、花きを飾ることの効用についても、説明する必要があるかと思えます。

2 花きの効用-癒し効果を例に-

鉢花によるストレスの緩和効果については、主にオフィスでの調査がされています。今西らの調査(2002)では、室内に配置してあった観葉植物を除去すると、仕事がやりにくく感じたり、室内の雰囲気好感が持てなくなったり、快適さが低下したとを感じる人が増加することが分かっています。

切花については、池井らの調査 (2013) で、高校生に花瓶に飾ったピンクのバラ 30 本を 4 分間見てもらったところ、交感神経活動の低下と副交感神経活動の上昇がみられたほか、リラックス感が高まるなどし、ストレスの改善効果がみられたと報告しています。

花きの癒しの効果については、経験として感じている人もいますが、実験等でも確かめられています。

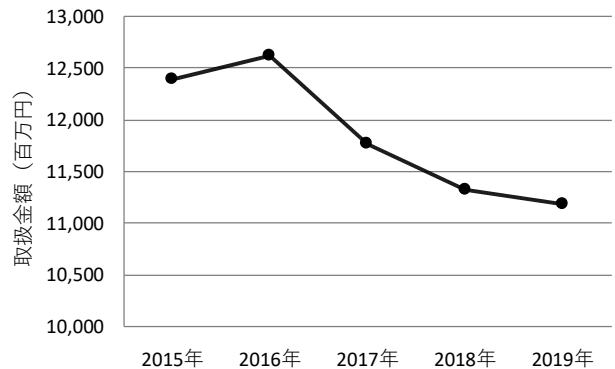


図 1 東京都中央卸売市場における本県産花きの取扱金額の推移

・東京都中央卸売市場市場統計情報より作成

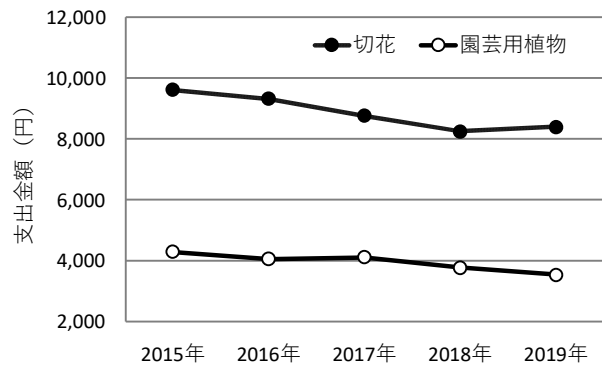


図 2 二人以上の世帯における切花及び園芸用植物への支出金額の推移

・総務省「家計調査」より作成

・園芸用植物は、ガーデニング、家庭菜園に係る植物 (草花、球根、鉢植えの植木など)

3 どういう花きを飾ればいいか？

Toyoda らの調査(2020)では、職場の卓上に置けるサイズの植物を用意し、疲れたときに3分間、その植物を意図的に見つめることで、脈拍数の低下が確認されたこと等を報告しています。この試験に用いた植物はエアプランツ・盆栽・サボテン・観葉植物・コケ玉・多肉植物でしたが、どれであっても効果に差はなく、それよりも、自分の気に入った植物を選び、自分で世話することが大事だとしています。

自分の気に入った花きは愛着がわき、丁寧に管理ができると思います。鉢花を部屋に入れることが難しい場合は、お気に入りの切花や時期にあった切花を飾るのもよいのではないのでしょうか。切花は鮮度保持剤を用いると長く楽しむことができます。

花きのPRについては、品質をはじめ、様々な効用があることを伝えることも一つの方法かと思います。それらを伝えることで、花きを家庭に飾ったり、家族に贈ったりし、花の効果を感じようとする人が増えることを期待します。

筆者が部屋に飾った花きの一例



花見の時期に飾った桜



小さな瓶に数本の花でも



興味本位で買った
ウツボカズラ

参考文献

- ・今西弘子, 生尾昌子, 稲本勝彦, 土井元章, 今西英雄, 「植物の存在がオフィスで働く人々に与える心理的効果」, 園芸学研究, 2002, 1 巻, 1 号, p. 71-74.
- ・池井晴美, 李宙宮, 宋チョロン, 小松実紗子, 日諸恵利, 宮崎良文, 「バラ生花の視覚刺激がもたらす生理的リラックス効果—高校生を対象として—」, 日本生理人類学会誌, 2013, 18 巻, 3 号, p. 97-103.
- ・Masahiro Toyoda, Yuko Yokota, Marni Barnes, Midori Kaneko, “Potential of a Small Indoor Plant on the Desk for Reducing Office Workers’ Stress”, HortTechnology(2020), Volume 30, Issue 1, p55-63.

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋市中央卸売市場（品目：みつば）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
元年実績	4 8 3	4 4 8 (93%)	6 3 5	6 3 0	静岡(6%) 福岡(1%) 大分(1%)
2年見通し	3 0 0	—	2 5 0	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>県内の海部及び名古屋地域からの入荷が中心となる。4月下旬の生育状況は順調で草丈が伸び、軸も太く、平年並みの入荷が見込まれる。</p> <p>一方、新型コロナウイルスの影響で業務需要が停滞し、給食需要がなくなり、安値が続く見通し。事態が集束すれば、平年並みの動きとなるか。</p> <p>入荷量と価格はともに前年を大幅に下回る見込み。</p>			<p>現況は、生育が良く、品質の問題はないものの、需要の低迷と安値により、産地が出荷を減らす傾向がみられる。</p> <p>みつばは、土用の丑、お盆、年末にかけての需要がある。今後も土用の丑に向けて、価格が徐々に上がることも予想されるため、安定出荷をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（ペコロス）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
元年実績	1 9 4	2 3 (12%)	6 6 5	9 7 8	北海道(71%) オーストラリア(10%) ニュージーランド(4%)
2年見通し	1 9 0	—	6 7 0	—	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>元年産の入荷量は前年比101%と前年並である一方、本県産は同107%（シェア12%）と増加している。</p> <p>本県産は5～8月を担うが、5～7月は主要産地の北海道からの入荷がなく、8月も入荷が少ないため高単価となる。他の競合産地は少なく、年間を通した需要が期待できることから、本県産の出荷期間において単価は安定している。</p>			<p>ペコロスは、業務向けを中心に安定した需要がある。中心産地である北海道の入荷がなくなる5～7月の愛知産に対する期待は大きく、品質的には評価が高い。</p> <p>レストラン等、大きくはないが確実な需要があり、夏場を担うほぼ唯一の国内産地となっている。単価に見合う安定した入荷が求められている。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し

名古屋市中央卸売市場

4月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%)			
				上旬	中旬	下旬	
野菜計	27年	32,052	269	279	266	263	愛知 29%
	28年	33,981	242	243	233	246	茨城 10%
	29年	35,201	227	235	213	230	熊本 7%
	30年	35,247	215	215	207	218	徳島 7%
	元年	33,516	215	209	214	215	長崎 6%
	5ヵ年平均	33,999	234	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	32,600	236	—	—	—	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知を中心に茨城などから入荷する。各品目ともに生育は概ね順調で、平年並の入荷が予想される。にんじんやはくさいは前進出荷により前年に比べてかなり入荷量が減る見込み。 全体では、入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。						
	だいこん	27年	2,099	103	126	101	90
28年		1,774	100	97	109	97	千葉 28%
29年		1,924	97	106	99	91	鹿児島 2%
30年		1,724	80	67	88	99	青森 1%
元年		1,765	87	72	103	94	茨城 1%
5ヵ年平均		1,857	94	95	100	94	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し		1,750	90	80	90	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知を中心に千葉などから入荷する。愛知はやや前進しており、順調な入荷が続く見込み。下旬に向けて入荷ピークを迎え、それ以降は減少すると予想される。栽培面積は高齢化等により微減している。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。							
にんじん		27年	2,239	147	131	138	171
	28年	2,269	165	202	187	126	岐阜 23%
	29年	2,369	133	141	140	118	兵庫 3%
	30年	2,769	117	165	119	89	
	元年	2,409	111	129	112	101	
	5ヵ年平均	2,411	134	154	138	119	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,200	130	120	130	140	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	徳島を中心に一部岐阜から入荷する。徳島は前年に比べて残量が少なく、本年は切り上り時期が早まるか。岐阜は前年並の入荷量となる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値となった前年を大幅に上回る見込み。						

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	27年	129,348	277	291	276	265	千葉 17%
	28年	134,886	259	260	256	261	茨城 16%
	29年	144,436	238	245	234	235	佐賀 7%
	30年	142,138	230	227	234	231	群馬 5%
	元年	136,302	223	217	229	224	長崎 5%
	5ヵ年平均	137,422	245	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	137,000	250	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地からの入荷が中心となる。土物類、果菜類は西南暖地からの入荷が本格化する。暖冬による前進傾向の一方、4月の低温で生育停滞もあるが、産地の切替わりにより大きな端境期はない見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
だいこん	27年	10,248	104	136	107	75	千葉 78%
	28年	9,466	96	99	101	88	茨城 12%
	29年	10,434	91	107	89	78	青森 3%
	30年	8,980	85	69	88	101	福岡 2%
	元年	9,253	80	64	102	78	栃木 2%
	5ヵ年平均	9,676	92	96	97	84	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	9,400	85	85	85	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、茨城からの入荷が中心となる。暖冬から生育進むも、一部に3月下旬の低温による遅れがあり、全体的には平年並の入荷となると見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は安かった前年をかなり上回る見込み。</p>					
にんじん	27年	7,481	154	138	145	180	徳島 66%
	28年	8,805	177	207	202	136	千葉 25%
	29年	9,126	141	146	146	131	長崎 2%
	30年	10,370	132	173	130	97	中国 1%
	元年	7,965	124	132	119	123	熊本 1%
	5ヵ年平均	8,749	145	161	148	131	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	7,900	135	140	135	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>徳島、千葉からの入荷が中心となる。徳島は前進化により中旬以降の数量を減らす、千葉が伸びてくる見込み。入荷量は平年を下回るものの、価格は厳しい展開となるか。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

4月17日現在

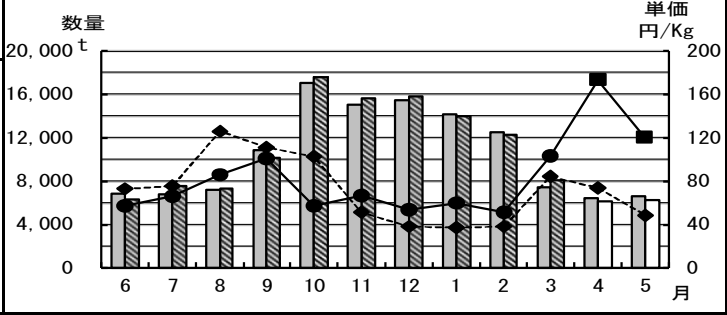
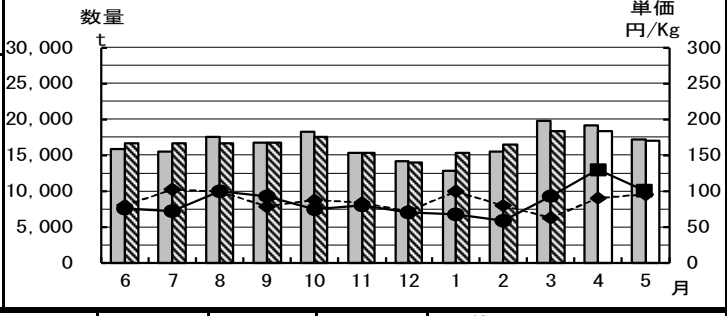
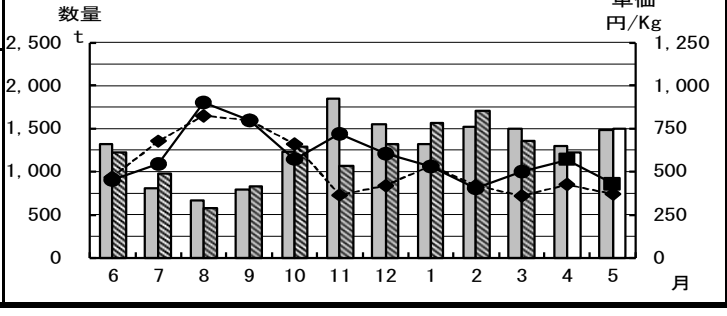
単位：入荷量=トン、卸売価格=円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	27年	1,640	179	188	199	144	茨城 80% 愛知 14% 長野 6%
	28年	1,471	82	90	80	80	
	29年	1,572	84	114	70	70	
	30年	1,980	71	65	82	71	
	元年	2,079	66	67	64	69	
	5ヵ年平均	1,749	94	102	97	86	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,700	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に愛知、長野から入荷する。茨城は暖冬と高値で前進出荷となり、中旬から減少する見込み。愛知は平年並の生育状況で、入荷は下旬で終了する見通し。長野は下旬から入荷が始まる。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は安値となった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
キャベツ	27年	3,311	185	264	216	107	愛知 76% 茨城 19% 兵庫 2% 神奈川 2% 宮崎 1%
	28年	3,371	113	123	100	118	
	29年	3,380	103	130	92	97	
	30年	3,729	75	80	74	77	
	元年	3,089	107	90	131	103	
	5ヵ年平均	3,376	116	137	121	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	3,200	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に茨城などから入荷する。両産地ともに生育良好で、順調な入荷の見込み。愛知は前進しており、春キャベツはGW明けにピークを迎える可能性もある。入荷量は前年をやや上回り、価格はかなり下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	27年	256	551	525	556	548	岐阜 65% 茨城 19% 愛知 9% 静岡 3% 長野 2%
	28年	273	578	539	562	611	
	29年	300	515	528	469	573	
	30年	277	561	510	579	590	
	元年	316	453	379	511	468	
	5ヵ年平均	284	529	493	533	556	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	280	550	550	600	500	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に茨城、愛知などから入荷する。岐阜は主産地の飛騨地域の生産者、栽培面積とともに減少傾向にあるが、順調な入荷を見込む。愛知は高温期に向けて、入荷が徐々に減少する見通し。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

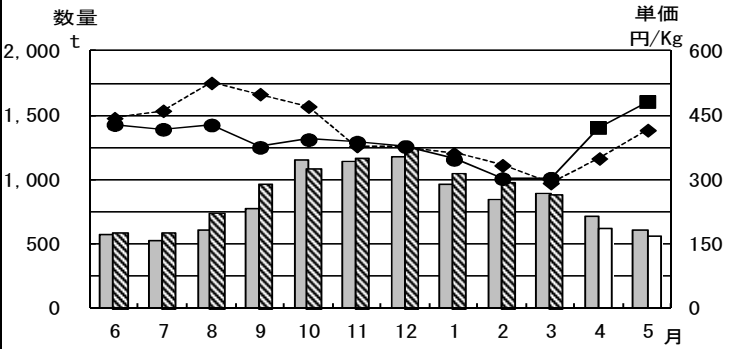
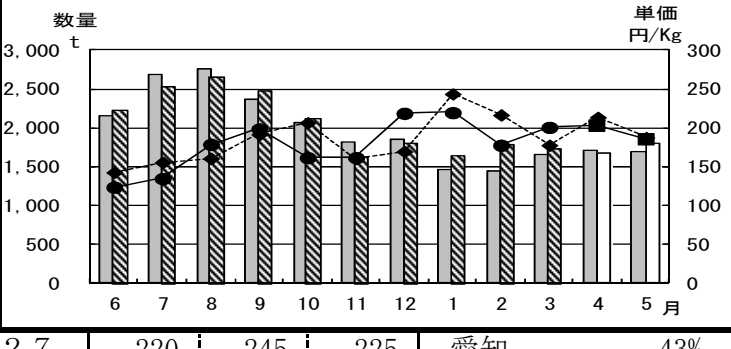
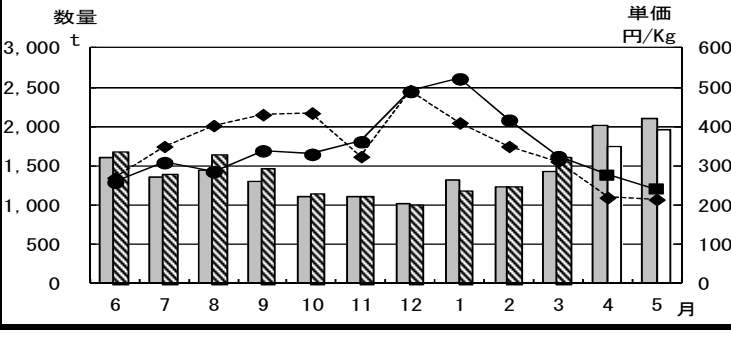
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ほうき	27年	5,041	142	151	173	106	茨城 98%	
	28年	5,882	60	66	58	57	長野 2%	
	29年	7,005	64	90	60	43		
	30年	6,982	52	46	66	44		
	元年	6,570	48	51	47	46		
	5ヵ年平均	6,296	70	77	76	57	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	6,200	120	120	115			
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城からの入荷が中心となる。茨城の作付面積は前年とほぼ変わらず生育は良好で、暖冬によりやや前進傾向。4月の高値で収穫を前倒した影響もあり、出回りは前年より減る見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
								
	キャベツ	27年	16,562	149	170	165	112	千葉 39%
28年		17,349	100	101	100	98	愛知 23%	
29年		19,052	90	97	87	87	神奈川 23%	
30年		19,976	63	60	65	65	茨城 13%	
元年		17,175	96	74	121	96		
5ヵ年平均		18,023	98	99	105	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2年見通し		17,000	100	100	100			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、愛知、神奈川、茨城からの入荷が中心となる。暖冬により各産地とも生育が前進化傾向。下旬には神奈川、愛知からの数量が減るものの、千葉からの数量が増えてくる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。</p>						
								
ほうれんそう		27年	1,456	467	467	466	469	群馬 38%
	28年	1,375	473	456	469	492	茨城 36%	
	29年	1,512	436	459	401	455	埼玉 8%	
	30年	1,412	446	421	480	442	岩手 6%	
	元年	1,481	370	340	399	370	岐阜 4%	
	5ヵ年平均	1,447	438	428	442	445	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	1,500	430	450	430	410		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城など関東産地を中心に岩手などからも入荷する。群馬は気温高により生育前進気味。茨城は作付面積が増え、生育は順調で数量も増える見込み。総じて潤沢な入荷が見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
								

名古屋市中央卸売市場

4月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	27年	644	514	506	547	518	大分 28%
	28年	581	558	600	601	514	愛知 20%
	29年	602	449	439	459	444	鳥取 8%
	30年	573	497	456	547	499	静岡 7%
	元年	604	416	439	402	417	中国 6%
	5ヵ年平均	601	487	488	511	478	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	560	480	500	480	460	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知、大分、鳥取などから入荷する。作況も悪くなく、引き続き順調な入荷を見込む。秋冬ねぎはほぼ終了し、春ねぎは順調な入荷となる見通し。愛知は越津ねぎが終了し、新長ねぎは順調な入荷を見込む。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							
し	27年	1,937	222	271	183	227	長野 63%
	28年	1,738	189	198	170	205	茨城 15%
	29年	1,890	161	202	153	137	兵庫 15%
	30年	1,841	166	153	145	200	山梨 2%
	元年	1,689	188	193	201	174	愛知 2%
	5ヵ年平均	1,819	185	204	170	189	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,800	185	200	170	190	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
長野を中心に茨城、兵庫などから入荷する。4月の主産地である茨城と兵庫は入荷が前進しており、中旬に終了する見通し。後続の長野は平年並の生育状況で、中旬から入荷量増の見込み。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年並となる見込み。							
きゅう	27年	1,903	227	220	245	225	愛知 43%
	28年	1,807	259	248	255	277	群馬 15%
	29年	1,928	232	245	225	227	高知 13%
	30年	2,102	246	206	296	249	長野 9%
	元年	2,108	215	205	223	216	宮崎 8%
	5ヵ年平均	1,969	235	224	249	238	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,960	240	250	240	230	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知を中心に群馬、高知などから入荷する。各産地ともに上旬頃までは順調に入荷する見込み。愛知、高知、宮崎は終盤。群馬、埼玉中心の北関東は順調な入荷が見込まれ、ピークは5月になると予想される。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	27年	3,899	511	497	547	486	茨城 41%
	28年	4,024	539	628	523	486	千葉 26%
	29年	4,230	426	420	435	420	埼玉 10%
	30年	4,102	461	467	527	404	栃木 5%
	元年	4,234	406	431	375	412	中国 4%
	5ヵ年平均	4,098	467	489	481	442	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	4,200	410	400	420	410	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、千葉など関東産地からの入荷が中心となる。生育はおおむね順調で肥大も良好。産地により前進化傾向。病害虫の発生は少なく、総じて大きな問題はない。 入荷量は前年並となり、価格も安かった前年並の見込み。</p>					
し	27年	7,531	205	242	169	205	長野 36%
	28年	8,232	170	184	149	176	茨城 31%
	29年	8,298	142	182	131	119	群馬 26%
	30年	7,863	152	130	135	191	兵庫 2%
	元年	7,602	160	163	175	147	栃木 2%
	5ヵ年平均	7,905	165	180	151	167	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	7,500	170	180	170	160	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、茨城、群馬からの入荷が中心となる。茨城は前進化により出荷が終盤となり数量が減る。高冷地の長野、群馬は一部で低温による生育遅れがあり、一時的に端境期が生じるおそれがある。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
きゅうり	27年	8,711	227	214	245	221	埼玉 30%
	28年	8,998	255	266	249	247	群馬 26%
	29年	9,282	233	243	225	231	千葉 10%
	30年	9,219	258	215	318	258	茨城 10%
	元年	8,460	215	209	231	204	宮崎 9%
	5ヵ年平均	8,934	238	230	254	233	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	8,400	270	270	260	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>埼玉、群馬、千葉など関東産地からの入荷が中心となる。多くの産地で出回りの多い時期となる。気温高で前進化する産地がある一方、低温で生育遅れがみられる産地もあるが、総じて前年並の入荷となる。 入荷量は少なかった前年並となり、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

4月17日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)			
			上旬	中旬	下旬				
な	27年	1,098	353	370	372	345	351	熊本	38%
	28年	1,020	370	372	376	372		愛知	36%
	29年	1,115	357	367	357	351		宮崎	21%
	30年	1,050	342	332	347	351		高知	4%
	元年	1,165	315	332	317	306			
	5ヵ年平均	1,090	347	354	348	345		前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2年見通し	1,150	320	335	320	310				
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
	<p>愛知、熊本を中心に入荷する。作況は良好で、中旬まで安定的に入荷する見込み。愛知は4月中旬の入荷が前年比87%と下回ったが、天候次第で前年並の入荷に回復する見込み。宮崎からの入荷が上旬より始まる。 入荷量と価格は前年並となる見込み。</p>								
マ ト	27年	1,664	354	372	339	350	熊本	52%	
	28年	1,881	284	295	273	283	愛知	21%	
	29年	1,913	254	252	254	258	三重	15%	
	30年	2,177	235	266	244	202	岐阜	11%	
	元年	1,980	210	219	213	204			
	5ヵ年平均	1,923	264	278	262	255		前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2年見通し	2,000	270	300	250	250				
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
	<p>熊本、愛知を中心に三重、岐阜から入荷する。着果状況は良く、気温の上昇とともに入荷量は増加する見通し。愛知は天候次第で平年並の出荷量に回復する見込み。 入荷量は前年並で、安値となった前年を大幅に上回る見込み。</p>								
ミ ニ マ ト	27年	501	627	617	605	659	熊本	56%	
	28年	577	565	573	541	573	愛知	32%	
	29年	694	529	499	537	561	宮崎	8%	
	30年	777	501	529	500	475	和歌山	5%	
	元年	832	439	461	437	418			
	5ヵ年平均	676	521	527	515	523		前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2年見通し	800	470	470	460	480				
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
	<p>熊本、愛知を中心に入荷する。暖冬の影響で大幅な入荷量の増加は見込めない。販売の中心は量販店となる。例年5月は安値だが、今年は新型コロナウイルスの影響で見通しがたてづらい。 入荷量は前年をやや下回るが平年より多く、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>								

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	27年	4,099	396	390	405	394	高知 44%
	28年	4,106	420	416	428	416	群馬 14%
	29年	4,748	399	435	400	370	福岡 14%
	30年	4,532	399	398	416	388	熊本 8%
	元年	4,813	341	347	340	336	栃木 4%
	5ヵ年平均	4,460	390	397	398	381	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	4,800	360	370	360	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知、群馬、福岡などからの入荷が中心となる。各産地とも生育は概ね順調で、群馬は気温高により前進傾向。入荷量の増加に伴い、価格は下げに向かうか。 入荷量は多かった前年並となり、価格は安かった前年をやや上回る見込み。</p>					
ト マ ト	27年	8,964	357	380	336	356	熊本 30%
	28年	10,443	295	319	279	291	栃木 23%
	29年	10,263	280	278	282	281	愛知 11%
	30年	10,990	270	303	278	234	千葉 7%
	元年	10,019	246	247	250	242	茨城 6%
	5ヵ年平均	10,136	288	304	284	278	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	10,000	320	330	310	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地や熊本、愛知からの入荷となる。関東産地では4月は小玉傾向だったが、果実肥大は回復する。数量は平年を下回るものの、荷動きが鈍く不足感はない。 入荷量は前年並となり、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	27年	1,917	607	594	580	650	熊本 46%
	28年	2,302	512	519	490	528	愛知 20%
	29年	2,434	495	447	502	536	宮崎 8%
	30年	2,742	470	493	464	452	千葉 8%
	元年	2,854	407	439	393	392	静岡 6%
	5ヵ年平均	2,450	490	492	478	500	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,600	500	580	500	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、千葉、宮崎からの入荷が中心となる。主要産地は5月上旬にピークを迎えるため増量を見込む。 入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

4月17日現在

単位：入荷量=トン、卸売価格=円/kg

品目名	実績と見通し	区分	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
				上旬	中旬	下旬			
ピーマン	27年		702	382	592	389	303	鹿児島	38%
	28年		740	349	462	351	307	宮崎	29%
	29年		926	311	386	311	263	茨城	22%
	30年		850	276	326	296	269	高知	11%
	元年		733	244	271	225	284		
	5ヵ年平均		790	311	403	313	284		
	2年見通し		700	320	370	320	270		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
	<p>鹿児島、宮崎、茨城を中心に入荷する。鹿児島と宮崎は終盤で、品質低下が懸念される。茨城は順調な入荷を見込む。宮崎の夏秋ピーマンが中旬から入荷する。入荷量は前年をやや下回り、価格は安値となった前年を大幅に上回る見込み。</p>								
白菜	27年		3,185	219	232	205	226	長崎	64%
	28年		3,445	205	202	194	217	鹿児島	25%
	29年		3,401	166	193	162	156	静岡	4%
	30年		2,859	127	147	128	108	北海道	4%
	元年		3,274	133	145	132	122	熊本	2%
	5ヵ年平均		3,233	171	185	165	167		
	2年見通し		3,130	150	160	150	140		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
	<p>長崎、鹿児島を中心に北海道、静岡などから入荷する。長崎は平年よりやや早めの開始となり、入荷ピークはGW明けとなる見込み。鹿児島は中旬でほぼ終了か。北海道はほぼ終了し、残量は少ない見通し。入荷量は前年をやや下回り、価格は安値となった前年をかなり上回る見込み。</p>								
タマネギ	27年		4,133	117	102	113	145	愛知	62%
	28年		5,731	75	73	66	88	北海道	25%
	29年		6,404	81	87	72	87	兵庫	11%
	30年		5,465	80	92	74	80	熊本	1%
	元年		4,920	78	87	77	74		
	5ヵ年平均		5,330	85	87	78	92		
	2年見通し		5,000	70	70	70	70		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
	<p>愛知、北海道を中心に兵庫などから入荷する。愛知は生育順調で、L、2Lサイズを中心に順調な入荷を見込む。北海道は終盤。これから入荷の中心となる兵庫は生育順調で、今後の入荷量増が予想される。入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>								

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	27年	2,509	412	577	382	320	茨城 68%
	28年	2,623	383	461	368	334	宮崎 16%
	29年	2,881	361	434	348	313	高知 11%
	30年	2,721	328	357	321	307	鹿児島 5%
	元年	2,802	318	332	290	332	
	5ヵ年平均	2,707	359	429	341	321	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,800	350	380	340	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に高知、宮崎、鹿児島から入荷する。各産地とも生育は順調だが、茨城は樹勢の弱さもみられるほか害虫の発生が多いため、懸念が残る。 入荷量は前年並となり、価格は安かった前年をかなり上回る見込み。</p>					
<p>長崎を中心に高知、宮崎、鹿児島から入荷する。各産地とも生育は順調だが、茨城は樹勢の弱さもみられるほか害虫の発生が多いため、懸念が残る。 入荷量は前年並となり、価格は安かった前年をかなり上回る見込み。</p>							
白菜	27年	8,925	216	205	204	239	長崎 58%
	28年	9,131	211	201	204	226	鹿児島 27%
	29年	10,757	165	182	160	155	北海道 6%
	30年	9,465	118	130	123	104	熊本 5%
	元年	9,658	132	143	132	122	静岡 4%
	5ヵ年平均	9,587	167	172	164	167	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	9,600	130	150	130	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長崎、鹿児島からの入荷が中心となる。九州産地の生育は順調で、暖冬により前進化や大玉傾向となっており、上旬にピークを迎える。その後に入荷する静岡も豊作基調。 入荷量、価格とも前年並となる見込み。</p>					
<p>長崎、鹿児島からの入荷が中心となる。九州産地の生育は順調で、暖冬により前進化や大玉傾向となっており、上旬にピークを迎える。その後に入荷する静岡も豊作基調。 入荷量、価格とも前年並となる見込み。</p>							
たまねぎ	27年	12,350	128	121	123	139	佐賀 59%
	28年	11,608	92	118	83	77	北海道 19%
	29年	14,172	104	103	103	107	兵庫 5%
	30年	12,933	90	93	92	86	千葉 5%
	元年	14,481	87	98	85	80	香川 3%
	5ヵ年平均	13,109	100	106	97	98	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	15,000	70	65	70	75	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>佐賀、北海道からの入荷が中心となる。主力の佐賀は前年同様に豊作基調。前年ほどではないが大玉傾向で、L玉中心の入荷が見込まれる。北海道も在庫が潤沢で入荷は多く、価格は軟調となるか。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
<p>佐賀、北海道からの入荷が中心となる。主力の佐賀は前年同様に豊作基調。前年ほどではないが大玉傾向で、L玉中心の入荷が見込まれる。北海道も在庫が潤沢で入荷は多く、価格は軟調となるか。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

4月15日現在

単位：入荷量=トン、卸売価格=円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	27年	7,141	419	423	416	419	熊本 34%
	28年	6,951	419	433	429	403	フィリピン 17%
	29年	7,203	409	427	405	415	青森 13%
	30年	7,100	417	442	429	405	愛知 11%
	元年	6,419	426	450	427	424	ニュージーランド 8%
	5ヵ年平均	6,963	418	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	6,100	430	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	すいか、メロン、りんご、いちごを中心に 入荷する。りんごは前年より在庫が少なく、 価格は前年をやや上回る見込み。いちごは 緩慢な入荷となり、天候によっては早く 切り上がるか。 全体では、入荷量は前年をやや下回り、 価格は前年並の見込み。						
その他 メロン (アールスメロン以外)	27年	818	455	482	471	429	熊本 80%
	28年	953	419	491	423	377	愛知 7%
	29年	758	448	487	453	436	メキシコ 5%
	30年	837	435	529	450	378	茨城 3%
	元年	829	446	537	447	396	鹿児島 3%
	5ヵ年平均	839	440	505	448	402	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	750	450	500	440	400		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本を中心に愛知、メキシコなどから 入荷する。九州産などの入荷ペースは かなり早くなる見込み。愛知のメロン 類も前年並の入荷が見込まれる。 入荷量は前年をかなり下回り、 価格は前年並の見込み。						
す い か	27年	1,424	290	296	294	285	熊本 81%
	28年	1,496	278	301	295	256	愛知 14%
	29年	1,390	299	319	307	281	和歌山 2%
	30年	1,576	272	323	289	234	沖縄 2%
	元年	1,518	265	293	269	246	
	5ヵ年平均	1,481	280	306	290	260	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	1,450	270	300	270	260		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本を中心に愛知からも 入荷する。本年は天候に恵まれ、 生育は順調。前年は大きく前 進出荷したものの、本年は前年並 かやや早い出荷が予想される。 愛知はGW明けからの入荷見込み。 入荷量は前年をやや下回り、 価格は前年並となる見込み。						

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	27年	26,394	439	460	429	432	熊本 27%
	28年	26,086	444	471	443	460	青森 13%
	29年	28,729	418	438	418	399	茨城 11%
	30年	27,416	447	481	443	420	フィリピン 9%
	元年	26,366	438	468	444	410	愛媛 7%
	5ヵ年平均	26,998	437	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	26,300	420	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	すいか、メロンを中心に入荷する。ハウスみかんは前年より出荷遅いも生育は順調で徐々に増加。アールスメロンは主力静岡が順調で品質も良い。一方、非常事態宣言等の影響で販売は厳しい見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。						
その他メロン (アールスメロン以外)	27年	2,709	528	619	550	467	茨城 64%
	28年	3,233	477	546	495	428	熊本 28%
	29年	2,868	500	539	534	479	メキシコ 5%
	30年	3,314	458	562	479	413	長崎 1%
	元年	2,846	465	565	487	444	千葉 1%
	5ヵ年平均	2,994	484	553	498	440	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,900	440	470	440	410	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	茨城、熊本を中心に、品種はアンデスやクインシーなどが入荷する。茨城及び熊本ともに生育は順調で玉肥大もよく、前年並の入荷を見込む。なお、業務需要の引き合い弱く価格は厳しいか。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。						
すいか	27年	5,954	300	305	300	296	熊本 70%
	28年	6,900	288	312	298	267	千葉 15%
	29年	6,272	297	313	305	284	茨城 11%
	30年	7,402	287	327	298	248	群馬 3%
	元年	6,806	281	316	286	262	
	5ヵ年平均	6,667	290	315	297	270	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	7,100	270	280	270	260	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本を中心に千葉、茨城などからも入荷する。大玉すいかは主力の熊本が前年比増の入荷見込み、千葉は面積を大きく減らす。小玉すいかは主力の茨城が前年比増の入荷見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。						

切花・鉢花の5月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 5月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	27年	1,739	53	
		28年	1,777	51	
		29年	1,753	43	
		30年	1,724	32	
		元年	1,730	35	
5ヶ年平均		1,745	43		
2年見通し		1,550	30		
く	概要	愛知中心の入荷。母の日参りの定着から上旬は動きも良いことが見込まれる。中旬以降は夏菊の出荷も始まり、数量が増えて相場展開が厳しくなりそう。			
小 ぎ	実績	27年	1,374	27	
		28年	1,128	30	
		29年	1,080	30	
		30年	978	22	
		元年	1,050	26	
5ヶ年平均		1,122	27		
2年見通し		950	25		
く	概要	上旬は沖縄中心の入荷で中旬から下旬にかけて愛知、奈良の出荷も増えてくる。平年に比べ数量は少なめになりそう。			
カー ネ ー シ ョ ン	実績	27年	1,864	37	
		28年	1,651	42	
		29年	1,888	46	
		30年	1,610	43	
		元年	1,600	43	
5ヶ年平均		1,723	42		
2年見通し		1,500	40		
く	概要	愛知、和歌山中心の入荷。全体的前進傾向で推移している。新型コロナウイルスの影響もあるが、産地の切り替え時期が近づく。			
か す み	実績	27年	247	74	
		28年	245	64	
		29年	241	68	
		30年	220	64	
		元年	230	65	
5ヶ年平均		237	67		
2年見通し		200	60		
く	概要	高知、和歌山、熊本から入荷する。4月下旬の出荷予定が気温の低下により5月上旬にずれ込み、母の日の仕入れ予定週は上位等級中心に入荷が多い見込み。母の日後は新型コロナウイルスの影響により高知では見切りをつけ、転作を始めており、出荷数量は減少する。			

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	27年	344	143	
		28年	348	142	
		29年	342	158	
		30年	283	143	
		元年	300	140	
	5ヶ年平均	323	145		
2年見通し	280	130			
概要	高知、宮崎、埼玉、新潟からの入荷となる。母の日需要である上旬は少ないが、中旬ごろから数量は増えてくる見通し。需要期の上旬は少ないこともあり、堅調に推移すると思われるが、中旬以降は新型コロナウイルスの影響もあり、見通し不透明。				
洋らん	実績	27年	368	92	
		28年	387	90	
		29年	417	77	
		30年	329	80	
		元年	350	80	
	5ヶ年平均	370	84		
2年見通し	300	70			
概要	愛知、鹿児島、静岡、徳島等の国産並びに輸入品が入荷する。新型コロナウイルスの影響もあり、全体的に落ち込みが見受けられる。特に輸入品はエア便が確保できず、入荷しない日もあると思われる。				
ばら	実績	27年	969	71	
		28年	908	71	
		29年	918	74	
		30年	990	72	
		元年	960	72	
	5ヶ年平均	949	72		
2年見通し	900	65			
概要	愛知、岐阜、三重中心に入荷。高冷地の出荷も徐々に始まり、産地が出そろふ。色、品種により多少の出荷ムラはあるが、なだらかな出荷が見込まれる。				
枝もの	実績	27年	1,513	47	
		28年	1,373	48	
		29年	1,618	48	
		30年	1,309	47	
		元年	1,400	47	
	5ヶ年平均	1,443	47		
2年見通し	1,200	43			
概要	ゴールデンウィークは母の日ウィークでアリウム系や和の枝物などは引き合いが弱い、花束、アレンジ等に使える物は強い。母の日明けは新型コロナウイルスの影響で稽古需要も見込めず、見通しも立たないため、弱含みの展開で農家の出荷も見合わせが多く、入荷は少ない見込み。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
カララ	実績	27年	26,975	547	
		28年	18,967	602	
		29年	34,378	489	
		30年	18,365	596	
		元年	21,489	720	
	5ヶ年平均	24,035	577		
2年見通し	21,000	733			
概要	<p>入荷量は若干微減の見込み。近年母の日需要が高まり、特に良品の4号MIXが品薄になりそう。競売価格に関しては新型コロナウイルスの影響が心配ではあるが、例年だと特に母の日週は駆け込み需要が増える為、相場は安定する見込み。 前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位長野（44.5%）、2位埼玉（14.9%）、3位新潟（11.9%）となっている。</p>				
ファレノ	実績	27年	42,717	2,577	
		28年	41,268	2,742	
		29年	64,213	2,280	
		30年	49,222	2,330	
		元年	48,013	2,448	
	5ヶ年平均	49,087	2,452		
2年見通し	48,000	2,448			
概要	<p>入荷量は昨年より減少か。母の日需要も短くなり販売数量、販売単価も下がっている為である。売れる時期は4月下旬から5月上旬と予想される。例年中旬は相場が鈍るので出荷は上旬か下旬に固めて頂きたい。 前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（53.1%）、2位熊本（10.5%）、3位静岡（9.7%）となっている。</p>				
バラ及びミニバラ	実績	27年	83,294	418	
		28年	85,276	342	
		29年	104,123	338	
		30年	78,433	324	
		元年	75,290	312	
	5ヶ年平均	85,283	347		
2年見通し	75,000	307			
概要	<p>入荷量は前年並か若干減少傾向にある。例年通りゴールデンウィーク中が最需要期になるので早めの出荷をお願いしたい。5号鉢までの小鉢中心の動きになるがポットサイズの素材出荷もお願いしたい。 前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜（45.5%）、2位愛知（39.0%）、3位その他（4.1%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイ ド ラ ン ジ ア	実 績	27年	230,997	689	
		28年	229,714	753	
		29年	353,921	890	
		30年	284,993	921	
		元年	280,059	872	
	5ヶ年平均	275,937	836		
	2年見通し	280,000	871		
概要	<p>入荷量は前年より減少か。母の日が暦上で前年より2日早い為、出荷時期としても多少早まる。今後の天候にもよるが今年に入ってから暖冬傾向で生育が早い予想もあり、5月上旬予定の商品が4月へシフトする商品もある見込み。5号中心の取り扱いでバイカラー系と額アジサイの八重系の引き合いは強い。近年小鉢の生産も増えてきていて増加予想傾向、相場は世間の状況次第ではかなり厳しい見込み。</p> <p>前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(51.2%)、2位群馬(14.9%)、3位埼玉(7.0%)となっている。</p>				
ス パ テ イ フ ィ ラ ム	実 績	27年	28,370	291	
		28年	21,873	278	
		29年	18,041	313	
		30年	24,505	254	
		元年	17,894	296	
	5ヶ年平均	18,779	291		
	2年見通し	20,218	284		
概要	<p>生産数は年々減少傾向なので前年よりさらに入荷量減少の見込み。新型コロナウイルスの影響が未知数だが、贈答など企業間自粛もあり、6号以上サイズの販売単価安が予想される。</p> <p>前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重(41.1%)、2位愛知(30.0%)、3位岐阜(14.4%)となっている。</p>				
カ ー ネ ー シ ョ ン	実 績	27年	347,103	421	
		28年	296,483	466	
		29年	472,208	474	
		30年	377,299	493	
		元年	363,009	443	
	5ヶ年平均	371,220	461		
	2年見通し	360,000	447		
概要	<p>入荷量は前年より減少か。相場が芳しくなく、特に5号が減。定番赤ピンクは昨年並みにはなるが複色系は少なくなる見込み。暖冬の影響か例年より出荷が早まる見込みにより苦戦が予想される。</p> <p>前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(47.0%)、2位その他(16.9%)、3位群馬(15.8%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.563
令和2年5月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434